

## 新聞 読んだ 考えた

# 平和な世界願う

八戸学院光星高3年

坂根 亜莉沙さん



私はこの記事を読み、捕虜となつてしまった家族の気持ちを考えたとしても悲しくなりました。なぜこのようなことが起こってしまうのか。人々の平和を願い、戦争のない国、世界にしてほしいと強く思いました。

捕虜交換をしたことで、最愛の人に再会できた家族もいてよかったなと安心しました。一方で、再会できない家族もいるという事実がとても心苦しい話だなと思いました。

弟と連絡がとれなくなった、キーウ近郊に住むユリアさんは、「ぎょうは手掛かりがなかった。明日も来る。明日会えなければ明後日も。それしか希望がないから」と話していました。「それしか希望がないから」とは、どれほど苦しくて悲しい日々を送っているのかを考えさせられます。

再会できなかった多くの人々のことを考えると、戦争をなくしてほしいと思います。今、私たち日本の学生にできることはないかを考え、世界の人々の幸せを願い、生活していきたいです。

2025年5月26日付4面「ロシアとの捕虜交換ルポ 再会現場 歓喜と悲嘆 ウクライナ 1万人の帰還見通せず」 ロシアとウクライナが全面侵攻後で最大規模となる捕虜交換を実施した。だが当局によると、兵士と民間人計約1万人がロシアに捕らえられたままで、解放の見通しは立たない。現場は歓喜と悲嘆が入り交じった。